



訪問診療・往診専門

医療
法人

かさまつ在宅クリニック

かさまつ

通信

No.19

(平成30年6月)

学生実習がはじまります

今年度も徳島大学医学部医学科6年生の学外実習を受け入れることになりました。在宅療養している患者さんやご家族の姿をみたり、話しを聴いたり、在宅医や訪問看護師の仕事を理解したり、そして、在宅医療に関連する医療制度について学ぶ重要な機会です。

最近の医学教育も変革がみられます。従来の「見学型実習」から「診療参加型実習」へシフトしています。つまり、診療を見学するだけでなく、診療に参加し、一緒に問題点を考え、一緒に解決方法を考えていく参加型教育です。また、“多職種連携教育”も大きな教育の柱です。多職種の機能や役割を理解し、グループ理論に基づいた医師としてのリーダーシップの役割を理解することも重要とされています。医療、介護のシームレスな連携においては、医師以外の職種について理解することは、必要不可欠の時代です。

実習参加できる医学生は、【客観的臨床能力試験：OSCE（注）】という厳しい試験に合格したものがまいます。逆に言えば、OSCEに合格したものでないと臨床実習に参加できないシステムになっています。とは言っても、医学生は医師ではありません。参加型といっても、守秘義務については繰り返し指導してまいりますし、患者さんの同意いただけない医行為については医学生が行うことはありません（医学生が行ってよい医行為は決まっています）。院長の責任のもと、実習に参加させていただくこととお約束いたします。

在宅医療の現場を通して、医師として何が必要か？卒業までの残された時間で何をすればよいのか？など感じとってくれればと思います。医学実習の趣旨をご理解いただき、ご協力いただきますようお願い申し上げます。

（院長 笠松 哲司）

（注）OSCE（Objective Structured Clinical Examination）の略



6/4（月）から、訪問診療・訪問看護の際、医学生が同行させていただきます。実習期間は1週間で、1週間に1名ずつ、計3名の医学生が、6/22（金）までまいます。ご理解いただきますようお願い申し上げます。



〒770-0932 徳島市仲之町2丁目8番地2

TEL:088-679-6393

FAX:088-679-6394

HP: <http://www.kasamatsu-zaitaku.net>



訪問診療・往診専門

医療
法人

かさまつ在宅クリニック

かさまつ

通信

No. 19

(平成30年6月)

例年より早い梅雨入りとなりましたが、皆様お変わりなくお過ごしでしょうか？

いつも車で移動ばかりなので、慢性的な運動不足を解消するべく、昨年より友人と一緒に(プチ)トレッキングをしています。あまり長時間遠方に出かけることができないので、半日程度で帰ってこられる場所を歩いています。

昨年は、あずり越え(文化の森～植物園往復)から挑戦し、神山の雨乞いの滝～悲願寺コース、大川原高原から高鉢山コースを歩きました。今年も気候がよくなってきたので、つい先日、上勝の山犬嶽の苔の谷へ行ってきたところです。若干高所恐怖症の私は、断崖絶壁の岩の展望台先端まで行くことができませんでしたが、崖の上に張り出した岩の上で青空に向かって手を伸ばし、背伸びをして深呼吸をすると気分爽快でした！また、群生する水苔の中では思いっきりマイナスイオンを吸いこんできました。

初心者でも気軽に挑戦できる近場のトレッキングコースがありましたら、また教えてください。



さて、3月に小児の患者様ご家族にご協力いただきました、小児在宅医療に関する意識調査アンケートですが、宛先不明の方を除く16名のご家族に送付し、10名の方からご返答いただきました。その節は、お忙しい中ご協力ありがとうございました。

アンケートでは、実際に小児の訪問診療や訪問看護等のサービスを受けてみた印象や、現在の生活で困っていること、今後在宅療養を続けていく上で必要と思われるサービス等についてお答えいただきました。この結果は前回号でもお伝え致しましたとおり、行政や福祉関係者にお伝えするとともに、今月発売されます「在宅新療 0-100 (へるす出版)」6月号の特集『多様性のある社会における小児在宅医療のあり方』に寄稿させていただきました。

最近、訪問診療をされていて思うことは、小児の場合、訪問診療や訪問看護でさえも、お母様を主とする介護者の方の自由時間を拘束してしまうということ。日常の介護に加え、通院や通所・通学に要する時間の上に、訪問スタッフの対応もしていただくわけですから、時に申し訳なく思うこともあります。貴重なお時間を割いていただくことにはなりますが、常日頃のストレス発散に、愚痴でも結構ですので何でもお話をお聞かせください。溜めこまずに吐き出すことで、気持ちの負担が軽減できると思います。

これからじめじめとした鬱陶しい季節になりますが、気持ちは晴れやかにいきましょう！

(小児科 笠松 由華)

